

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

10

《EKUTEBIAN VOL.12 OCTOBER 1993 EKUTEBIAN》



きい

あーと ■ イラストレーション「読書のシステム」by 坂東慶一



2年前のクリスマス  
に一番町（2丁目）の  
『ブルミエール』は、  
開店した。店主の遠山  
好幸さんは高校を卒業  
後、山梨から上京。有  
名レストランのパティ  
スリー部門を回り、銀座のマキシムド・バリを経て  
ついに独立。結婚を機に、西武立川駅前に念願の店  
をオープンさせた。ダックワーズ、リーフパイなど  
の焼き菓子からムースまで、季節毎に微妙に味を変  
え続け、種類も豊富で開発に余念がない。今回の『りん  
ごとマロンのミルフィーユ』は秋の味覚、栗とぶ  
どうが、りんごと共に森の音楽会の始まりを待って  
いるというストーリー。サブタイトルが『木の葉の  
ないしょ話』。子供の頃、ポケットいっぱい詰め込  
んだ夢の一つになればと語る遠山さん。お菓子で  
幸せになれる分量に挑戦する姿が見える。

撮影：板橋一明



サイクルハウス

**輸輸館** (ゆんゆかん)

立川柴崎町2-12-17  
TEL 0425-22-8100

# 遠山好幸の Feuilleté aux Pommes et Marrons

リンゴとマロンのミルフィーユ



# 立川の縁起者を知っていますか？

おやっ？ お猿さんが、芸をしている。昔、縁起者として、お祭の時などにお目見えした、猿まわしが……。

多摩川は富士見町6丁目の土手で、早朝、村崎新八さんと芸猿、勘平くんは稽古に励んでいた。

反省ポーズで一世を風靡した、村崎太郎・次郎コンビが昨年、芸術院賞受賞により渡米公演。その時、共演したのが、村崎新八さんと勘平くんだった。

勘平くんの愛敬たっぷりの演技に子供から大人まで大歓び。さらに、新八さん自ら制作したコントを披露。

今までの猿まわしに新風を吹き込んでいる二人の挑戦はまだまだ続く。おかげで、こりゃ、立川も縁起がいいや。



間の取り方、ギャグの打合わせは、早朝、多摩川で。土・日は、銀座の数寄屋橋公園で大道芸を披露。休日のひととき、道行く人は勘平くんの登場に思わずびっくり。







ルミネ・立川駅  
交換台  
川島千明さん

電話の向こうに本人と話してるだけのその人がいる。当人にはまるで見えているように表情も真剣だ。電話抜きは円滑で一瞬の狂いもないかのようだがこ

立川駐屯地  
航空隊の管制員  
高杉由紀子さん



立川駅  
ダイヤ輸送指令  
古川俊美さん

## 眼が語る

眼は口ほどにモノを言う  
コトバにならない思いも語る。

### No.3 電話する眼



NTT立川104番

の一本が時には、人生にかかわってくる。電話一本が命綱、電話する眼には、受話器の向こうが見えている。  
撮影：名尾居真  
デザイン：池田隆男

立川消防署  
119番の担当官  
金原 昇さん

